

「家庭科教育の在り方及び実施状況」に関するアンケート調査結果

北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員会

調査対象: 北海道における全高等学校及び中等教育学校(課程別・大学科別) 353

回答数: 回答総数270(公立246、私立24) 回収率: 76.5%

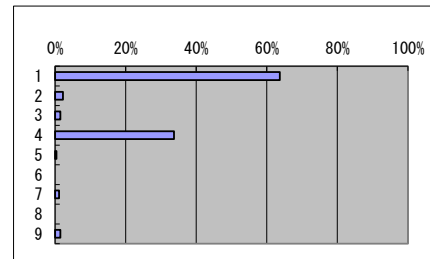
実施期間: 平成29年11月17日～11月28日

1 実施科目について

(1) 実施している共通教科「家庭」の科目名及び単位数

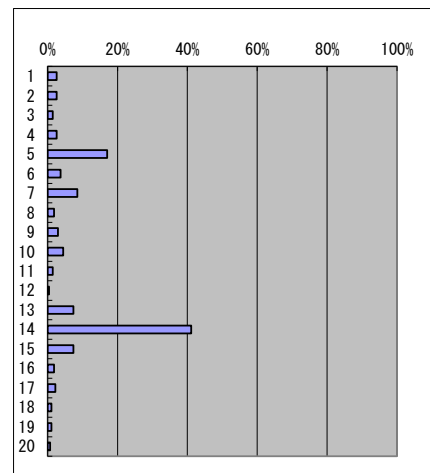
① 家庭基礎(2単位)	①	172	63.7%
② 家庭基礎(3単位)	②	6	2.2%
③ 家庭総合(3単位)	③	4	1.5%
④ 家庭総合(4単位)	④	91	33.7%
⑤ 家庭総合(5単位)	⑤	1	0.4%
⑥ 生活デザイン(3単位)	⑥	0	0.0%
⑦ 生活デザイン(4単位)	⑦	3	1.1%
⑧ 生活デザイン(5単位)	⑧	0	0.0%
⑨ その他	⑨	4	1.5%

家庭総合(6単位)、研究指定校事業による特例の科目



(2) 実施している専門教科「家庭」の科目名

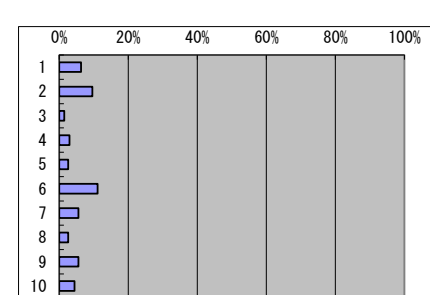
① 生活産業基礎	①	7	2.6%
② 課題研究	②	7	2.6%
③ 生活産業情報	③	4	1.5%
④ 消費生活	④	7	2.6%
⑤ 子どもの発達と保育	⑤	46	17.0%
⑥ 子ども文化	⑥	10	3.7%
⑦ 生活と福祉	⑦	23	8.5%
⑧ リビングデザイン	⑧	5	1.9%
⑨ 服飾文化	⑨	8	3.0%
⑩ ファッション造形基礎	⑩	12	4.4%
⑪ ファッション造形	⑪	4	1.5%
⑫ ファッションデザイン	⑫	1	0.4%
⑬ 服飾手芸	⑬	20	7.4%
⑭ フードデザイン	⑭	111	41.1%
⑮ 食文化	⑮	20	7.4%
⑯ 調理	⑯	5	1.9%
⑰ 栄養	⑰	6	2.2%
⑱ 食品	⑱	3	1.1%
⑲ 食品衛生	⑲	3	1.1%
⑳ 公衆衛生	⑳	2	0.7%



(3) 開設している学校設定科目の分野

① 衣生活	①	17	6.3%
② 食生活	②	26	9.6%
③ 住生活	③	4	1.5%
④ 保育	④	8	3.0%
⑤ 消費生活	⑤	7	2.6%
⑥ 家庭生活全般	⑥	30	11.1%
⑦ 福祉・介護	⑦	15	5.6%
⑧ 生活設計	⑧	7	2.6%
⑨ 環境	⑨	15	5.6%
⑩ その他	⑩	12	4.4%

ライフデザイン、礼節教養、手芸・食品加工・行事食・保育など、食物研究、食物デザイン、食物、被服構成、実践家庭基礎、生活学、地域研究、家庭科演習、生活教養



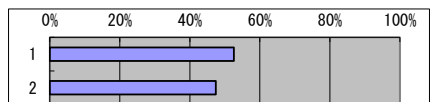
2 指導資料集の活用について

平成29年3月に発刊した「問題解決能力・意思決定能力の育成を目指した指導資料」について

① 指導資料集について知っていますか。

- a) はい
b) いいえ

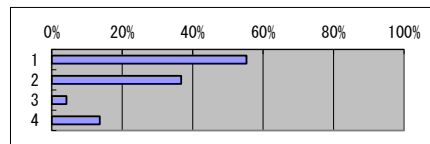
a)	142	52.6%
b)	128	47.4%



② ①でa)はいと答えた方に伺います。活用状況はいかがですか。

- a) 活用している
b) 一部活用している
c) 今後活用していく予定
d) 見たことがあるが活用していない

a)	146	55.3%
b)	97	36.7%
c)	11	4.2%
d)	36	13.6%

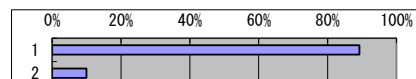


3 主体的・対話的な深い学びの実践について

日ごろの授業において、生徒の話し合いの場を設けたり、課題解決に向けた主体的・対話的で深い学びを意識して行っていますか。

- a) はい
b) いいえ

a)	241	89.3%
b)	27	10.0%

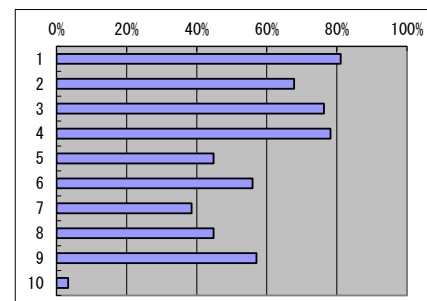


4 身に付けさせたい資質・能力について

主体的・対話的で深い学びを実践することで、身に付けさせたい資質・能力はどのようなものですか。
※複数回答可

①	学習した内容を実際の生活で生かす能力	219	81.1%
②	他者との会話を通して自分の考えを明確にする能力	183	67.8%
③	他者と意見を共有して互いの考えを深める能力	206	76.3%
④	他者と協働する能力	211	78.1%
⑤	新しい知識・技能を実習を通して定着させる能力	121	44.8%
⑥	生活の中から課題を見つけ出す能力	151	55.9%
⑦	生活の中の課題をPDCAサイクルに基づき問題解決する能力	104	38.5%
⑧	自分が社会に参画し貢献する能力	121	44.8%
⑨	自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する能力	154	57.0%
⑩	その他	9	3.3%

・教科を超えた汎用的能力
・自専心
・批判的態度
・他者への関わり方
・自ら考え行動する力
・人と力を合わせて困難を乗り越える力

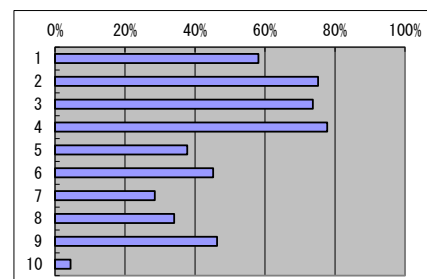


5 身に付く資質・能力について

主体的・対話的で深い学びを実践する行ことで、身に付く資質・能力はどのようなものだと思いますか。
※複数回答可

①	学習した内容を実際の生活で生かす能力	157	58.1%
②	他者との会話を通して自分の考えを明確にする能力	203	75.2%
③	他者と意見を共有して互いの考えを深める能力	199	73.7%
④	他者と協働する能力	210	77.8%
⑤	新しい知識・技能を実習を通して定着させる能力	102	37.8%
⑥	生活の中から課題を見つけ出す能力	122	45.2%
⑦	生活の中の課題をPDCAサイクルに基づき問題解決する能力	77	28.5%
⑧	自分が社会に参画し貢献する能力	92	34.1%
⑨	自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する能力	125	46.3%
⑩	その他	12	4.4%

・コミュニケーション力
・自分の考えや意見を言葉にして伝える力
・教科を超えた汎用的能力
・生徒個々の特性や資質に応じた力

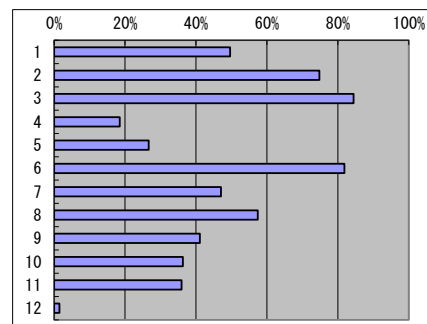


6 授業の実施形態

主体的・対話的で深い学びを、授業においてどのような形態で実施していますか（実施しようと思いますか）。
※複数回答可

①	データや資料の読み取り	134	49.6%
②	実習による技術・技能の定着	202	74.8%
③	実験・実習等の協働的取組	228	84.4%
④	地域社会での実践やボランティア	50	18.5%
⑤	保育所や高齢者施設等の訪問による実践的取組	72	26.7%
⑥	グループによる話し合い	221	81.9%
⑦	ペアによる話し合い	127	47.0%
⑧	学習結果の発表	155	57.4%
⑨	学習結果の考察	111	41.1%
⑩	生活の中の課題解決に向けた取組	98	36.3%
⑪	学習した内容を実際の生活で生かす取組	97	35.9%
⑫	その他	4	1.5%

・仮想実験の考察
・社会問題の理解・考察
・サバイバル時の食の実習
・さまざまな考えを仲間と共有しながら実施する形態

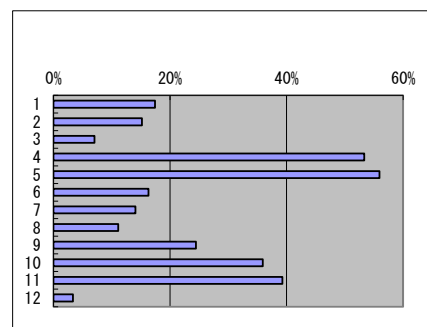


7 授業実践上の課題

主体的・対話的で深い学びを、授業で実施する場合の課題は何ですか。
※複数回答可

①	データや資料の読み取り	47	17.4%
②	実習による技術・技能の定着	41	15.2%
③	実験・実習等の協働的取組	19	7.0%
④	地域社会での実践やボランティア	144	53.3%
⑤	保育所や高齢者施設等の訪問による実践的取組	151	55.9%
⑥	グループによる話し合い	44	16.3%
⑦	ペアによる話し合い	38	14.1%
⑧	結果の発表	30	11.1%
⑨	結果の考察	66	24.4%
⑩	生活の中の課題解決に向けた取組	97	35.9%
⑪	学習した内容を実際の生活で生かす取組	106	39.3%
⑫	その他	9	3.3%

・実習等に必要な時間の確保
・他教科との兼ね合いによる時間割の編成
・単元の目標を達成するための全体計画の在り方
・教科で身に付けさせたい見方や考え方を深めるためのテーマ設定及び評価の在り方
・客観的な評価の方法
・一人で訪問・ボランティア活動を設定し、引率・評価すること
・実習先を確保できないなど立地条件



8 主な実践例について

○:食関連 □:衣関連 ◇:住関連 ◎:保育関連

【主な地域との連携、まちづくりへの関連】

- ・ 夕張市とコラボした授業を行い、内部空間をデザインしたバス待合所が市内に設置された。異世代交流や地域参画のきっかけとなった。
- ・ 市役所、大学、道の駅、生活関連産業、保育所、高齢者施設、ハローワークなど、様々な機関との連携を行った。
- ・ 地域の消費者センターが取りまとめているデータや、消費者動向及び経済データを利用した。
- ・ グループホーム実習において、ホームの職員から献立作成・調理方法を指導・支援してもらった。
- ◎ 幼稚園と連携し、幼稚園訪問を年5回実施した。高校生が幼児に教えることで、幼児教育を志す生徒が増加した。
- ◎ 保育実習において、継続的に絵本の読み聞かせを行った。
- ・ 町保健センターと連携し、保育体験実習、食生活改善実習及び食育甘味料実験(健康学習)を行った。
- ・ 産、学、官連携により、桜塩かまぼこ、森のバロン(大福、饅頭)、森らいすなどの商品開発とPR活動を行った。
- ◎ 地域の親子を招いて、赤ちゃんのふれあい体験を行った。
- ・ 教育委員会、小学校、こども園、高齢者施設と連携した授業を行った。
- ・ 保育所、図書館での実習・体験学習を行った。
- 住んでいる地域の食文化に触れるため、地域の飲食店での体験授業を行い、連携に係る活動を展開した。
- ・ 童謡や昭和歌謡を事前に練習し、近隣の老人ホームで披露した。
- ・ 地域の保育所や病院、高齢者施設等でボランティア活動を行った。
- 地域の食材を使った料理コンテストに参加し、地域の人々との交流から地元のよさや協働することの有用性を学習した。
- ・ 隣接した養護学校との交流を2回実施し、切り絵などの取組を交流しながら行った。
- ・ 地域の農産物を使用し、新しい名産品の開発を市と連携しながら行った。
- ・ 農業団体と連携し、地場産品の活用方法など消費拡大に向けての取組を実施した。
- ◎ 家庭基礎の授業において、「子育て支援センター」へのボランティアを実施した。
- ・ 地元の保育園訪問及びボランティア活動のあと、園児を招いて合同で調理実習を行うことをとし、食育を実践している。
- ・ 福祉施設でのふれあい体験、地域レストランでのマナー講座を実施した。
- ・ 社会福祉協議会、認定こども園と連携した取り組みを実施した。
- 地元の食材について地域の学芸員に講義をしてもらい、地域の食に関して詳しい方に魚の調理の仕方などを教えてもらいながら調理実習を実施した。
- 地域の協力を得て、1DAYレストランを開催した。
- 市の保健福祉センターの職員の食育に関する出前授業(講義+調理実習)を実施した。
- ・ 地域のNPO法人の協力を得て、高齢者サロン参加者と生徒の交流を行った。
- ・ 地域の高齢者を講師としてわらじ作り体験を実施した。
- 地元の食材を使ってレシピを考案した後、調理を行い、試食・振り返り・改善及びプレゼンテーションにより内容を深めた。
- ・ 浜の母さん料理講習会(市漁業協同組合)、市主催食育講座、消費者教育サポートセミナー(悪質商法)を実施した。
- ・ 消費生活川柳への応募に取り組んだ。
- 地域の方を講師に迎え、らわんぶき寿司やストリングチーズ作りなどの調理実習を行った。
- ・ 地域包括支援センターと連携し、認知症サポーター養成講座を実施した。
- ・ 町内の幼稚園、特別養護老人ホーム、養護学校への訪問や交流学習を実施した。
- ◎ 地域の「常設型子育て親子ひろば」における、保育実習や地域子育て支援行事などに参加した。
- ・ 町内保育園で実習、老人クラブ・高齢者ふれあいサロンとの交流会を実施した。子育て出前授業で配付された資料を活用し、事後指導としてグループワーク・発表会も実施した。
- 役場の栄養士と連携し、食生活教室を開催した。
- ・ 地域の行事において、販売実習を実施した。
- コミュニティスクールと連携して、地元産業である漁業を理解するため、地元の漁協から講師を招いて3年生を対象に鮭のさばき方講習会を実施した。
- ・ 高齢者分野・保育分野において、町教委と連携し高齢者学級との交流を年4回行い、今年度は幼稚園、高校、高齢者学級の3世代交流も実施した。

【主な外部人材の活用など】

- ・ 「生活と福祉」の授業において、講師を招き「認証講座」「介護講座」「手話講座」を実施した。
- ・ 富良野演劇工場より脚本家を招いて、家族領域の授業(2時間)及び家族ドラマを作るグループワークを行った。
- ◎ 旭川市の「わたしの未来プロジェクト」により、講師を派遣してもらい、保育領域の授業を行った。
- 食生活における地産地消学習のため、農協に依頼し、地元で取れたそばのそば打ち体験を地元高齢者大学の方を講師として指導してもらった。
- ◎ 檜山振興局林務課、上ノ国木工とのタイアップにより、子どもの発育を促すおもちゃ作りを行った。
- ◎ 大谷短大学長により、児童と文学についての授業を行った。
- 町食生活改善協議会とタイアップし、地域食材と郷土料理の授業を行った。
- 民間非常勤講師(調理師専門学校講師)と連携し、鹿肉と地元食材を用いた献立実習(地元食材青パパイア活用レシピ)を行った。
- 地域の方にボランティアで講師をお願いし、フードデザインのそば打ち体験授業を実施した。
- 専門学校の出前授業を活用し、調理実習(シェフ、パティシェなど)を行った。
- ・ 外部講師を活用し、「認知症サポーター養成講座」を実施した。
- ・ 単元「高齢期の生活」において、公的年金制度について年金事務所と連携し授業を実施した。
- ◎ 外部講師による講話(保育)、赤ちゃんふれ合い体験を実施した。
- ・ 手話、点字、介護職員、保育士等、地域の人材を講師とし、授業を行った。
- ・ 社会福祉協議会、町役場高齢者福祉課などから講師を派遣してもらい、授業を行った。
- ・ 思春期特有の「愛と性」について、外部講師(医師、看護師、保健師等)により講話を行った。
- ・ ユニバーサルデザインについて、講義及び実習を行った。
- 北海道米に関わる講話及び調理実習を行った。
- ものづくりマスターによる製菓技能講習会を行った。
- ・ 福祉教育アドバイザー派遣事業により、視覚障害・聴覚障害についての講義及び盲導犬体験・手話体験を実施した。
- ・ 調理系専門学校、着付け講習など外部講師を活用して授業を行った。
- 調理・製菓の分野において、現場経験の豊富な外部講師を招聘し、技術指導を行った。
- 「フードデザイン」において、外部人材を活用し、パン作り体験とテーブルマナー講習を実施した。
- 「フードデザイン」において、専門学校から外部講師を招いて本格的フレンチ料理を体験した。
- ・ 「光塩学園女子短期大学の出張講義を活用し、音楽リズムの内容での授業に取り組んだ。
- ・ 近隣大学の学生に、ピアエデュケーションを利用した性に関する講演を依頼した。
- ◎ 外部講師による子育て支援策出前授業を実施した。
- ・ 北海道消費者協会の方に、「スマホのトラブルとネット依存」について講演を依頼した。
- ◎ OGIにより、子育て講話を実施した。
- ◎ 市こども未来部こども課との連携により、子ども権利条約についての講演及び保育実習を行った。
- ・ 消費生活アドバイスセンターによる講演を実施した。
- ◎ 帯広市の出前講座を活用し、保育分野における出前授業を行った。
- ・ 元釧路ハローワーク勤務の森崎三記子氏を招き、ワークライフバランスに係る授業を行った。
- ・ 地元で読み聞かせのボランティア活動している方々により、大型紙芝居などの読み聞かせを行った。
- ◇ 建築士による住教育出張講座を実施した。
- ・ 消費生活センター相談員を招いて、消費生活講座を実施した。
- ・ 介護福祉事業所の出前授業において、車いす実習や半身麻痺体験を行った。
- 地元のレストランのシェフ、老舗和菓子職人を講師として招き、出前授業・調理実習を実施した。
- ・ 福祉アドバイザーによる盲導犬を活用した授業を行った。
- 地元の行政センター栄養士により、健康教育を実施した。

【学習(指導)方法の工夫など】

- ◎家庭経営と保育分野でディベートを実施した。
- ・グループワークーインシデントプロセスを利用した課題解決
- ・4人グループを作り、消費行動のランキング製作発表や持続可能な社会の実現を目指す消費行動を紙芝居で発表した。
- ・グループワークを活用して介護実習を行った。
- ・ファシリテーションスキルを育成するため、グループワークを実施した。
- ・タブレットを実験及び実習に取り入れ、動画撮影や生徒・教員の情報を共有し、それについて考察できるようなアクティブラーニングを取り入れ授業を行った。
- ・ホームプロジェクト活動の内容と発表を実施した。
- ・消費者教育において、グループにより悪質商法に係るポスター製作及びロールプレイングを実施した。
- ・プリント作成時にペアワークを実施した。
- ◎紙芝居づくり(7枚の絵を配り順番やその絵に合った話をグループで考えて発表)や、班ごとに絵本の読み聞かせを行った。
- ◎班ごとにコンセプトを決めて、弁当の献立研究し研究結果の発表させ、投票により献立No. 1を決め、全班で実際に調理し試食するなどのグループワークを行った。
- ・家庭基礎において「望まない妊娠」、「児童虐待防止」等をテーマにグループワークを行った。
- ・グループで討議及びその内容について発表させ、自主的・対話的な能力を身につけさせる授業を行った。
- ・地域の農家や高齢者施設、保育施設に複数回訪問し、体験学習を行った。
- ・相互学習(グループでの授業実践と小テスト実践)、調理実習(実習計画の構築)、フォトランゲージ等をグループワークで実施した。
- ・総合実習(毎週2時間の福祉施設の実習)及び生活、福祉の学習に取り組み、実績発表大会で計画・実施・成果・反省などPDCAを意識することにより発展的で効果的な学習が展開された。
- ・グループワークでは、新聞記事を活用した社会問題の解決策を考案した。
- ・発表やまとめなどの、実習に係る事前事後学習を綿密に行っている。
- ・ジグソー法を実施した。
- ・グループで自由に話し合える雰囲気作りを心がけるとともに、体験や擬似的な実践を心がけている。また、発表や自己評価を実施し、振りかえりを重視している。
- ・DV・デートDV事例について、KJ法とロールプレイングを導入し、取り組んでいる。
- ・税と社会保障について、グループワークにより考えを深めている。
- ◎児童労働を題材にした持続可能な衣服に関する学習、ダイヤモンドランキングを利用した子どもの権利条約、DIGを活用した防災教育などをグループワークで行っている。
- ・個人の意見や考えを記入し、グループをつくり意見を発表。その後、グループで課題解決や考察し、結果を代表者が発表している。
- ・高齢者がいきいきと暮らせる社会の実現のために必要なことを、個人とグループで考察し、ダイヤモンドランキングの手法を用いてグループワーク及び発表している。
- ◎育児中の教員に対して、育児に関するインタビューを行った。
- ◎グループ活動を通じて、オリジナルレシピを作成した。
- ・兄弟の構成の特徴を考えるグループワークを実施した。
- ◎栄養素調べにおいて、発表をポスターセッションで行った。
- ◎ライフステージ毎の献立作成、発表をジグソーを活用して行った。
- ◎学校設定科目「ライフデザイン」において、郷土料理について調べ学習を行い、その内容についてプレゼンテーションソフトを活用して発表した。
- ・「チョコレートの真実」の教材を使ってグループワークを行った。

【主にICTの活用・工夫】

- ・プロジェクターによる写真や映像の投影を行った。
- ・定時制生徒に対し、動画をYOUTUBEで見せるため、パソコン、プロジェクター及びスマホを活用した。
- ・「生活レベルアップ新聞」製作では新聞という紙面から生活に関わる問題点を把握し、ICTを活用した調査を経てグループ討議、新聞製作、プレゼンテーション発表会などを行った。
- ICTを活用して被服製作の技術指導で動画を流し、ファシリテーションスキル育成のためのグループワークを実施した。
- 被服実習の全体指導及び個人指導においてオリジナルの動画を使用した。
- ・これまで板書していた内容をプレゼンテーションソフト等のICTを活用して投影することにより、授業時間の確保と内容の充実を図った。
- ・インターネットを活用し、調べ学習に取り組んだ。
- ◎班ごとにタブレットを配布し、それを活用して調理実習のレシピを考案した。
- ・iPad「ロイロノート」を活用した授業を行った。
- ・授業を効率よく行うため、プレゼンテーションソフトなどを活用し、画像を示しながら課題であるレポートの解説を行った。
- ・実物投影機を活用して、手元の見やすさに配慮するとともに、プロジェクター及びタブレットを活用して、効果的に資料等の提示を行った。
- ・実物投影機を活用し演示実験を行ったり、プレゼンテーションソフトを活用し、黒板に学習内容等を投影した。
- ・実物投影機を活用し、グループ発表を行った。
- ・プレゼンテーションソフトを活用し、板書の時間短縮、配付資料の削減、写真・動画やネット情報などの効率化確認を行った。
- ◎調理製菓実習では、TVモニターを活用して手元をアップで見せるなどの工夫、調理作業の様子を動画で撮影したりスローモーション動画で撮影することで問題点を明確にするなどの工夫を行った。
- 衣生活分野において、花王株式会社の「よりよい衣生活と環境の創造をめざして」というプログラムを活用し、新しい衣類の取り扱い表示等の学習に取り組んだ。
- ◎調理実習において、iPadを活用し、生徒の調理映像を撮影しながら実習の充実に努めた。
- ・DVD、絵本、動画、写真などの視覚的教材を大型モニタに映写し、わかりやすさに心がけた。

【他教科との連携や横断的学習、関連させた取組】

- ・他教科の教員による実習を2回実施した。
- ◎学校設定科目において理科と連携し、理科で育てた枝豆を家庭科で調理して食べた後、理科で枝豆の栄養的特質の学習を行った。
- ◎理科(化学)と連携し、食品添加物をテーマにした授業を実施した。
- ◎地歴公民科と連携し、「地産地消」の観点から調理実習を行った。
- ◎理科で栽培・収穫した農作物を用い実習を実施した。具体には「じゃがいも料理コンテスト」の実施や、生徒が育てた米を炊飯して食べ比べるなどの活動を行った。
- ・商業科と、商品・レシピ開発で連携し、商業教育フェアへ参加した。
- ・「家庭基礎」において、生活と高齢者との関わりを扱う際、公民科(現代社会)と連携し、内容を横断的に捉えて実施した。
- ・他教科での学習において、食に関連する題材を扱ってもらったり、調理を学ぶ際に関連する歴史や化学・生物などを他教科の授業で取り扱ってもらった。
- ・公民科、保健体育科などと連携し、授業内容について共通した事項がある場合に、教材や資料について共有・精選した。
- ・道教委の研究指定事業の実施に当たり、職業科目と学習内容を共有し、協働しながら指導に当たった。
- ・保健・体育科と連携し、思春期講座を行った。
- ・芸術科(音楽)と連携し、福祉施設においてふれあい体験を実施した。
- ◎芸術科(音楽)と連携し、「子ども文化」や「リトミック音楽」の横断的学習を実施するとともに、幼稚園訪問でリトミックを取り入れたパネルをした。
- ・福祉科目と連携し、福祉分野等の授業を実施した。
- ・学習内容で関連付けができる公民科、保健体育科、英語科と連携を取りながら授業を実施した。
- ・理科教員と連携し、生活事象に関する実験計画の作成に取り組んだ。
- ・地歴・公民科と連携し、消費者教室の実施に取り組んだ。
- ・消費者教育サポートセミナー「学校訪問講座」において、国語科と連携し、環境問題についてグループワークと意見発表を実施した。
- ◎調理におけるテクスチャーの表現を、英語科と連携して実施した。

【主に分野を横断して、もしくは総合的な取組】

- ・「キャリア教育」に関わって、高齢者施設で働く卒業生を講師とし、介助実習を通して働く現場を知る授業を宿泊研修とリンクさせて実施した。
- ・「家庭基礎」と福祉科目の「生活支援技術I」を連動させている。「家庭基礎」の学びを基礎として、調理実習・被服実習に取り組むとともに、福祉実習報告会では高齢者の食生活の発表を行った。
- 学校設定科目「北海道学」において、地歴公民科や町の学芸員等の指導の下、アイヌ紋様について学び、その後に「ライフデザイン」でブックカバーやランチョンマット等を刺し子で制作する実習を実施した。